「財政計画」等を議会に示しました。その内容は非常にショッキングなもので、新型コロナウイルス感染症が市財政に与える影響は、今後5年間で実に60億円を超えるなど、まさに「崖っぷち」です。さまざまな計画や市民サービスが予定通りに進まなくなることが示されていました。

市長案は「ビフォアーコロナ」・・・つまり新型コロナウイルス感染症が発生していない段階で構想されたものです。このまま突き進めば、市民サービスの削減や先送り、高い税金など、市民に多大な迷惑がかかります。まさに「庁舎栄えて、民滅ぶ」になってしまいます。「大胆な経費削減」をキーワードに設計の抜本的見直しが必要です。求められるのは「脱ムダ」の思想です。

「市民の利益」こそ優先すべき

私もメンバーの一人である市民団体「庁舎と福祉会館の建設を考える会」は、小金井市内に在住する設計の専門家の力を借りて、市長案の重大欠陥を抜本的に是正して、市民の利益を優先すべく、「対案」（以下「市民案」という）をこのほどとりまとめました。

市民団体は、10月から11月に、「市長案」と「市民案」のどこがどう異なるのか、詳しい図面なども掲載した印刷物を市内に配布します。その印刷物には、「市民案」の実現を求める署名ができる陳情ハガキ（料金受取人払）もついています。ぜひご署名にご協力願います。陳情ハガキが必要な方にはお届けいたしますので、私までご連絡ください。

どちらが 「現在と将来の市民」 のためになるでしょうか？

「市長案」と「市民案」徹底比較！

西岡市長が強行を狙う案（市長案）	比較項目	市民団体が専門家と作成した対案（市民案）
既存のペットボトル処理施設をそのままにして工事を行うため、庁舎・福祉会館は敷地の南端ぎりぎりに寄せて建てざるをえない。全体として施工性（工事のしやすさ）が悪く、工期が長くかかる分、余計な経費が発生する。十分な「ひろば」が確保できないのも、これが主な原因。	建物の位置（1ページの図面参照）	まず、ペットボトル処理施設を旧リサイクル事業所の建物に移設。ペットボトル処理施設を撤去することにより、庁舎・福祉会館の建設位置を10メートルほど北側に移動して建設。これにより、庁舎・福祉会館の南側に大きな空地（約3000㎡）を設け、ここを工事拠点にすることにより施工性（工事のしやすさ）を向上させ、工期を飛躍的に短縮し、経費削減を実現することができる。
1万7130㎡ ※内２１３０㎡は地下駐車場などの面積。	床面積	1万5000㎡ ※執務スペース、市民スペースの床面積は市長案と同等。駐車場を地上にすること、市長案では過剰となっている廊下等の削減で全体面積減。
庁舎・福祉会館の北側にある通路や駐車場などを「小金井ひろば」と呼ぶ「看板に偽りあり」の変な計画。庁舎の陰になって陽当たりも悪い。駐車場と隣接しているので、子どもが安心して遊べない。およそ「ひろば」と呼べるスペースではない。	ひろば（1ページの図面参照）	庁舎・福祉会館の南側の大きな空地（約3000㎡）は、建物完成後は「ひろば」として整備。陽当たりの良い広々とした「ひろば」が確保できる。なお、駐車場は建物北側に配置するので、駐車場と隣接しない安全な「ひろば」となる。子どもたちが伸び伸びと遊べるような空間として整備。 ※現在の庁舎建設予定地にある「ひろば」も約3000㎡。ほぼ同等の面積を確保できる。
市長、職員が執務する庁舎部分には、大地震でもあまり揺れない「免震構造」を採用する。一方、高齢者・障がい者・乳幼児なども数多く利用する福祉会館部分は、建築費抑制のためと称して、「免震構造」は採用しない方針。	耐震	高齢者・障がい者・乳幼児なども数多く利用する福祉会館部分も、庁舎と同等に「免震構造」を採用し、将来にわたって安心して使うことのできる市民施設とする。 ※「免震構造」を採用しない場合、大地震が来た場合には、激しく大きく建物が揺れることになる。
84億4000万円 ※建設費以外の経費も含めると約108億円となる。なお108億円には起債（借金）の利息約3億7000万円は含まれていないので、総額はさらに増大することが確実。	建設費	68億2000万円（試算） ※工期を短縮すること、駐車場を地下ではなく地上に設置すること、建物の形状が簡素、などの理由で大幅な経費節減となる。
27か月 ※福祉会館は14か月、庁舎は27か月。福祉会館先行竣工、庁舎は後回し。	工期	17か月 ※福祉会館、庁舎とも17か月。同時着工、同時竣工。工期の大幅短縮がコストダウンにつながる。

特別定額給付金 10 万円支給、大幅遅れ

近隣市・類似市中、ワースト１位

西岡市長が議会で謝罪

新型コロナウイルス感染症対策として国が国民一人当たり10万円を特別定額給付金として支給しました。支給事務は各市区町村が行いましたが、支給のスピードには大きな違いがあり、小金井市は近隣市・類似市中、6月30日時点でも、7月15日時点でも、支給率がワースト1位であったことが判明しました。率の違いに絶句します・・・。

西岡市長は、他市に比べて大幅に支給が遅れた件について、議会で謝罪しました。

同給付金は、新型コロナウイルス感染症の「緊急」対策として実施されたものであり、収入が激減した世帯にとっては「命綱」とも言えるものです。市役所の能力の低さによって支給が大幅に遅れたことは、非常に大きな問題です。市民からも多数の苦情が寄せられており、市長はじめ行政は、原因を徹底的に分析し、二度とこのような大失態を起こさないようにすべきです。

特別定額給付金の支給率

市名	6月30日	7月15日
1位 東久留米市	75.00%	99.00%
2位 昭島市	93.90%	98.50%
3位 青梅市	89.80%	98.30%
4位 西東京市	95.20%	98.20%
5位 調布市	80.10%	97.50%
6位 武蔵野市	91.50%	96.60%
7位 小平市	81.40%	96.40%
8位 多摩市	44.30%	96.20%
9位 国分寺市	95.10%	93.40%
10位 府中市	46.20%	92.00%
11位 三鷹市	39.80%	79.60%
最下位 小金井市	26.50%	75.80%

（近隣市及び類似市との比較）（支給率⇒申請世帯に対する支給完了の割合 ）

渡辺大三が起草した「予算組替え動議」を市議会が可決

コロナ対策基金に1億8000万円

9月25日、小金井市議会は本会議を開催し、西岡市長が提出した一般会計補正予算（第6回）に対して、市議会の4会派が「新型コロナウイルス対策への予算措置が不十分だ」として提出した「予算組替え動議」を賛成17反対6の大差で可決しました。

市長は、可決された組替え動議の内容に即した補正予算（第7回）を提出することを約束。それを踏まえて補正予算（第6回）は全会一致で可決されました。

財調に 16 億、コロナにゼロ… の市長案

問題の発端は、西岡市長が編成した補正予算（第6回）における新型コロナウイルス感染症対策の不十分さにありました。

昨年度一般会計の黒字額が約22億円と確定。今回の補正予算は、その黒字額の内、本年度一般会計当初予算で「先食い」した4億円を除く約18億円の繰越金をどのように処理するかがポイントとなりました。

西岡市長は、18億円に関して、使途が自由な財政調整基金に16億8000万円を積み立てる一方、新型コロナウイルス対策基金には1円も積み立てないとの内容で補正予算を編成しました。現下の社会経済状況から考えて、あまりにも「無為無策」です。

これに対して私を含む多くの議員から、今後に備えて、新型コロナウイルス感染症対策基金にも一定額の積み立てをすべきだとの指摘がありました。小金井市の財政調整基金の残高目標は「20億円」とされてきました。本年度末の残高見込みは「45億円」と想定されていますので倍以上であり、基本的には充足しています。そういう状況を踏まえて、新型コロナウイルス感染症対策のための財源を用意することを多くの議員が求めたのです。

私は、当初、市長が財政調整基金に積み立てるとした16億8000万円のうち、5億円を新型コロナウイルス感染症対策基金積み立てることを模索しました。そして各会派に「予算組替え動議」の提出を呼びかけました。

金額等について調整の結果、最終的に、情報公開こがねい、公明党、共産党、市民カエル、の4会派共同で、「新型コロナウイルス感染症対策基金に1億8000万円を積み立て

本会議で登壇し、予算組替え動議の提案理由を説明する渡辺大三